

平成28年度入試【推薦入試Ⅰ】問題

小論文

(生物資源科学部 農林生産学科)

注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は3ページである。解答用紙は3枚、下書き用紙は3枚である。指示があってから確認し、解答用紙、下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 解答用紙及び下書き用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

問 1

日本の森林面積は国土の約 7 割で、森林面積に占める人工林の割合は約 3 割です。下記の【語句】を参照または使用して、日本の現在の森林についての問題を 1 つ提起し、あなたの解決策を 1 つ述べてください。論述に下記のすべての語句を使用する必要はありません。（400 字～800 字）

【語句】

降水、気温、森林の多様性、遷移、天然林、二次林、人工林、二酸化炭素、生物多様性、戦後の復興、高度経済成長、スギやヒノキの人工林、木材輸入の自由化、生産コスト、木材自給率、農山村、林業機械、林道、地球温暖化、再生可能エネルギー、水資源、洪水災害、土砂災害、安らぎ

問 2

下の図は、各国の単位面積あたりの農薬使用量 (kg/ha), および穀物, 果物, 野菜の生産量 (t) の割合を示したものである。これらの図より、日本において単位面積あたりの農薬使用量が多い理由について記述しなさい。 (400 字～800 字)

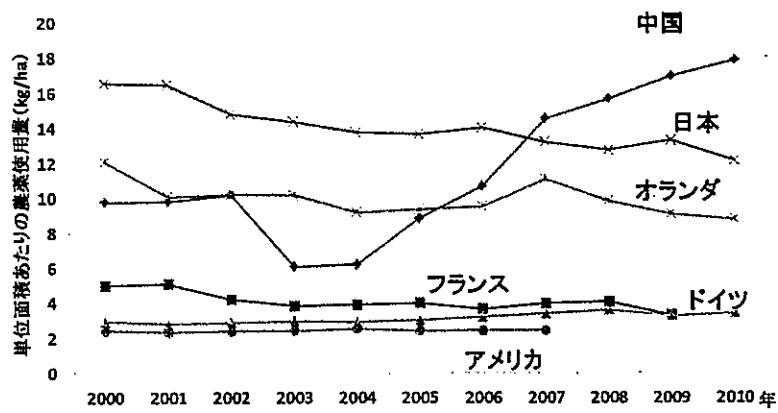


図1. 単位面積あたりの農薬使用量の推移

出典 FAOSTAT
2015年11月ダウンロード

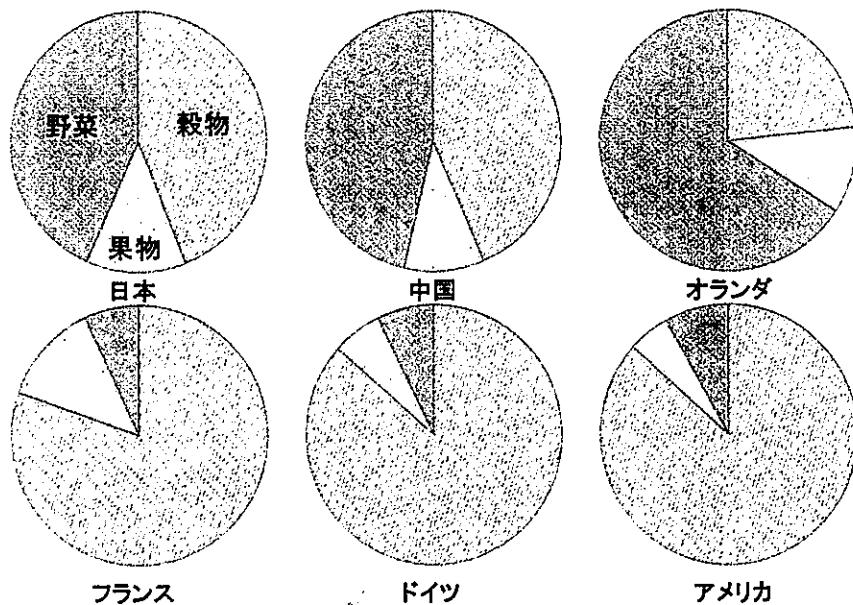


図2. 2007年における各国の穀物、果物、野菜の生産量(t)の割合

出典 FAOSTAT
2015年11月ダウンロード

問 3

6次産業化とは、1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組のことです。【出典：平成26年度 食料・農業・農村白書より一部抜粋】

以上のような取組が現在なされていますが、具体的に農家に対して、どのような提案ができるか、自分の考えを述べなさい。（400字～800字）